

CYBER WORLD

マザックワールドコミュニケーションマガジン

2014
No. 42

未来へ 駆け出す力

東南アジアテクノロジーセンタ &
シンガポール工場拡張
グランドオープン!

Customer Report

- 05 有限会社メガテック
- 07 株式会社 神奈川フッ素
- 09 YUDO CO.,LTD.
- 11 Austbore Pty Ltd.

News & Topics

- 13 新製品紹介
MAZAK PEOPLE
- 14 Ms. Shawn Turner
- 15 美術館情報

GRAND OPENING OF YAMAZAKI MAZAK SINGAPORE PTE., LTD.

「東南アジアテクノロジーセンタ」が稼働 シンガポール現地法人の生産工場も拡張

マザックが進めていたシンガポール現地法人のテクノロジーセンタと生産工場の拡張工事が完了し、3月19日にグランドオープンしました。この拡張は他社に先駆けて取り組んできたグローバル生産とサポート体制の拡充を狙いとしており、1988年の開業以来4回目。為替変動に柔軟に対応できる体質づくり、輸出能力の強化、納期短縮などを通して、現地ばかりでなく世界各国に目を向けた生産体制を構築する新たな戦略の一環でもあります。





お客様本位のサポート体制を一段と充実

今回の拡張の柱の一つは、1992年に開設したテクノロジーセンタの機能強化です。具体的には、対象地域をこれまでのシンガポールとマレーシアばかりでなく、タイ、インドネシア、ベトナムなどに展開する東南アジア全域のサポート拠点をまで拡大。この措置に伴い、名称も「東南アジアテクノロジーセンタ」と改めました。

同センタは延べ床面積4300㎡(拡張前比約4倍)で、大型機展示を想定した1300㎡(同)のショールームや96人収容のオーディトリウム、オンラインサポートセンタ、トレーニングルーム、パーツセンタなどで構成。高度なアプリケーションや最適な加工ソリューション、アフターサービスなど、お客様本位のサポート体制を一段と充実させています。

ショールームには、計14台(日本製10台、シンガポール製4台)のCNC旋盤、マシニングセンタ(MC)、複合加工機、レーザ加工機と、それらで加工した各産業別サンプルワークを展示。パーツセンタは9000種2万点(従来6000種1万5000点)の在庫数を誇ります。

月産80台から130台に高まった生産能力

もう一つの柱である生産工場の延べ床面積は1万5300㎡。拡張前に比べてスペースが倍に増えたことで、生産能力も月産80台から130台に約6割高まりました。新体制の工場では、旋盤11機種、立形MC1機種の計12機種を生産。昨年末から生産を始めた省スペース・高生産性CNC旋盤QUICK TURN PRIMOSシリーズの量産に速やかに対応できるのも強みです。

工場内は、主軸や刃物台などのユニットのラインと板金モジュールのラインとが連携する「同期生産方式」を設定。多段パレットストックを含む無人生産システムや知能ロボット付きの複合加工機など、マザックの“お家芸”である自動化・無人化を実現するシステムも随所に導入し、生産の効率化を図っています。

併せて、床面から3mの高さまでの作業エリアを効率的に冷やす「成層空調システム」を取り入れるなど、職場環境に配慮した設備投資にも力を入れました。

国内外のVIP招き、さまざまな行事も

生産工場とテクノロジーセンタの披露に先立って行われたオープニング式典にはシンガポール通商産業大臣をはじめ、同経済開発庁、在シンガポール日本大使館などからの来賓を含む国内外のお客様約300人が出席しました。

山崎智久社長は「シンガポールは革新的なソリューションと総合的なカスタマーサポートを提供するための理想的な基盤」と、同国で事業を営む意義を強調。ティオ・サー・ラック通産大臣は「国内製造業の発展になくてはならない、心強い存在」と、現地に根ざすマザックの活躍に期待を寄せていました。

施設見学を挟んだ同日夜のレセプションにはアジア地域だけで

なく、欧州や北中南米地域からのお客様も多数参加し、シンガポール現地法人の新たな門出を祝いました。

■ シンガポール工場 概要

| | |
|---------|------------------------------------|
| 会社名 | YAMAZAKI MAZAK SINGAPORE PTE.,LTD. |
| 従業員数 | 272名 |
| 総敷地面積 | 約3万9000㎡ |
| 建物延べ床面積 | 約2万6000㎡ |
| 生産機種 | 計12機種 |



- 01. 拡張工事が完了したシンガポール工場外観
- 02. ショールーム内に並ぶ最新の工作機械
- 03. 作業エリアを効率的に冷やす「成層空調システム」
- 04. 当工場で作られるQUICK TURN PRIMOS
- 05. 国内外の来賓を招いて開催されたオープニング式典の様子
- 06. 式典で挨拶する山崎智久社長

Customer Interview — オープンハウスにご来場いただいたお客様にお話を伺いました。



パスカル・インダストリーズ社
Pascal Industries Pte Ltd.

Nicholas Mak 氏
(左から5人目)

これまで以上に短納期のデリバリーに期待
——工場とテクノロジーセンタの拡張オープニングに参加された印象は?
「以前よりも工場が格段に広くなり、より先進的な

設備に進化しましたね。今回の工場とテクノロジーセンタの拡張がシンガポールの製造業に及ぼす影響は非常に大きいと思います。充実したサポート体制と高い生産能力は、シンガポールの顧客に

絶大な信頼と自信を与えると確信しています。」

——新体制への期待は?
「テクノロジーセンタでは、幅広いレンジの機種と最新の加工ソリューションを体感できるため、新たな生産方法を生み出すためのヒントをつかむことができます。一方、工場の生産能力が上がったことにより、これまで以上に短納期のデリバリーに期待できるでしょう。」

Customer Interview



JEP・プレジジョン・エンジニアリング社
JEP Precision Engineering Pte Ltd.

Soh Chee Siong 氏

技術力と地域密着の姿を示すショールーム
——オープンハウスでは、どのような点に興味を持ちましたか?
「新しいテクノロジーセンタに感銘を受けました。

中でも、白い床一面に並べられた先進的な機械の数々と、革新的な加工ソリューションの提案には目を見張りました。まさに、テクノロジーセンタのコンセプトそのものといえるでしょう。」

——ショーに参加した手応えは?
「最も素晴らしい点はマザックの技術の結集と、地域密着の姿が余すところなく示されていることです。これはマザックが世界中に存在する他のテクノロジーセンタについても言えるでしょう。今回のオープニングショーは私にとって、マザックの持ち味であるビフォア&アフターサービスの信頼性を確認する非常に良い機会となりました。」



有限会社 メガテック

代表取締役社長： 駒月 康久
 所在地： 三重県亀山市住山町644-16
 資本金： 300万円
 従業員数： 13人
<http://www.megatech-japan.com>
<http://www.livre-megatech.com> (LIVRE)

Customer Report 01

最新鋭機を「道具」として 使いこなせる底力

Japan 有限会社 メガテック

二輪車用のマフラーやフレーム、釣具のリールハンドルなどを開発、製作する有限会社メガテック。有名レーシングチームのチーフメカニックだった駒月康久社長が「いつかはバイクメーカーに」との願いを込めて1990年に三重県鈴鹿市で立ち上げました。しかし、その夢はリーマンショックの影響で断念。窮地を救ったのはバイク関連部品の素材や設備がそのまま使えるリールハンドルでした。



02



03



04

01. 業界でトップシェアを誇るブランド「LIVRE」
02. VARIAXIS 630-5Xで加工されるリールハンドルのパーツ
03. マフラーの溶接部。美しい曲面はメガテックオリティの証
04. 駒月康久社長(中央)を囲む社員のみなさん

好きだからこそ分かる使い手の気持ち

プロユースを対象とする二輪車関連パーツのOEM製造からスタートしたメガテックは同業者が手がけない短納期の仕事や特殊加工に特化。とりわけ、マザックの製品群を駆使した高精度の金属加工と高い溶接技術が注ぎ込まれたマフラーは創業以来、国内外の二輪車メーカーから高い評価を得ていました。

ところが、リーマンショックを契機に主力の対米輸出がゼロになると業績も低迷。起死回生を図るべく、新たな柱として釣具のリールハンドルの製作に踏み込みました。「マフラー作りのための素材や機械をそのまま使えるのが強み」(駒月社長)。釣り歴半世紀という駒月社長の趣味も転身の後押しをしました。

「好きなものは見ているだけでアイデアが浮かびます。使い手の気持ちが分かるからでしょう」(同)。他社が使うカーボンの代わりに超々ジュラルミン(A7075)を時間をかけて3D形状に削り出したメインプレートと薄肉中空チタンノブの組み合わせなどは、好きだからこそ生まれたアイデアの結晶といえるでしょう。



超々ジュラルミン(A7075)から削り出したリールハンドル

10倍の生産性を弾き出したレーザー加工機

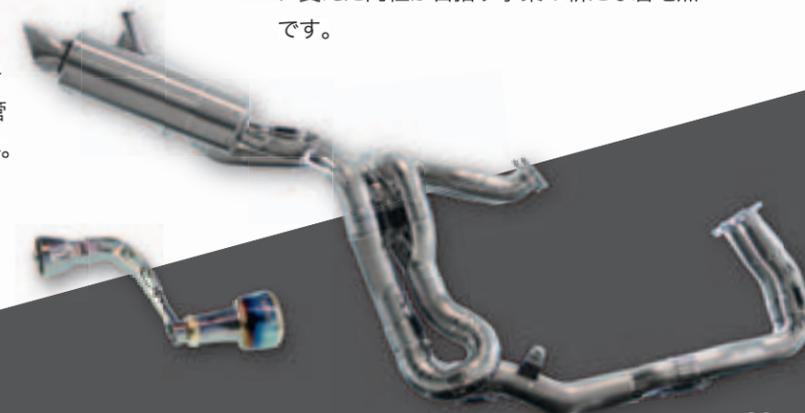
現在の製品別売上構成はリールハンドル70%、マフラー類30%の割合。リールハンドル製造への参入は2009年なので、5年間の伸びは驚異的。「初めて見た人がアツと驚く」(同)というハンドルのデザインには「デジタルの塊である最新鋭の工作機械で、あえてアナログ感を出す」(同)姿勢が貫かれています。

「公差を競う工作機械を使いながら、厳密な寸法ではなく、削り出した素材感を強調するのが当社の手法」と駒月社長は胸を張ります。取扱説明書にはない工夫を凝らすのも実力のうち。ともすれば複雑形状の加工にだけ使われがちな同時5軸機を単純な「道具」として使いこなせるのは同社の底力でしょう。



2008年に納品されたSPACE GEAR-U44

「コストよりスピードを重視するため」(同)、リーマンショック直前の2008年に導入したレーザー加工機「SPACE GEAR-U44」はマフラーを構成するエビ管のパーツ作りに寄与。



「ワイヤーカットで切っていた時代に比べ、生産性は10倍に」(同)と同機の貢献度をたたえます。

いつかはコンプリートメーカーに

同社工場で活躍するマザック機はレーザー加工機、5軸加工機、立形マシニングセンタ、CNC旋盤など計6機種。「それぞれの持ち味を生かして複数の試作品を並行して作るのに重宝しています」(同)。機械性能を最大限に引き出す使い方は、同社の強み。「機械に対する信頼はもちろん、アフターケアの良さは群を抜きます」と駒月社長はマザック製品を評します。



自社の主力機VARIAXIS 630-5Xに信頼を寄せる駒月社長

マザック機によるカロツツェリア志向のものづくりは製品ばかりでなく、市価の1割以下で自作した溶接ロボットに結実しています。「釣具全体を扱うコンプリートメーカーに」(同)。リーマンショックで直面したピンチをリールハンドルの市場開拓というチャンスに変えた同社が目指す事業の新たな着地点です。



01

COMPANY PROFILE



株式会社 神奈川フッ素

代表取締役社長：坂下 吉實
 所在地：神奈川県平塚市四之宮1-3-65
 資本金：2000万円
 従業員数：25人
<http://kanagawafusso.co.jp>

Customer Report 02

Japan 株式会社 神奈川フッ素

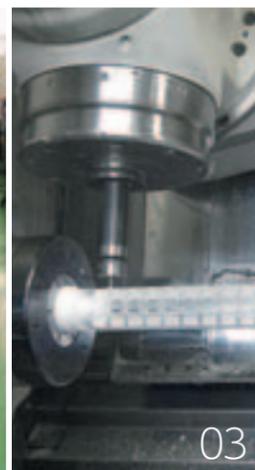
Customer Report 02
 より早く、よりきれいな製品づくりに照準

Japan 株式会社 神奈川フッ素

フッ素樹脂を中心とする切削加工を手がける株式会社神奈川フッ素は1990年に横浜市で創業。坂下吉實社長夫妻とパート従業員数人で立ち上げた町工場は現在、社員総数25人の規模にまで発展しました。この間、業容拡大に伴う3回の移転と工場の増築を見守ってきたのが主要設備のすべてを占めるマザック機です。「より早く、よりきれいな製品づくり」を掲げる同社がマザック機に寄せる期待とは。



02



03



04

- 01. 神奈川フッ素で加工された樹脂製品
- 02. マザックのCNC旋盤や複合加工機がワンフロアに15台並ぶ
- 03. INTEGREXでの複雑形状加工
- 04. 坂下吉實社長(前列左から3人目)を囲む社員のみなさん

生き物を扱うように気を遣うフッ素樹脂

「フッ素樹脂は生きています」。フッ素樹脂加工歴35年以上の坂下社長はこの素材を扱う難しさをそう例えます。環境温度によって寸法が大きく変わるフッ素樹脂は加工直後の熱が冷めると収縮します。まさに生き物です。製品品質を左右する無用の収縮を防ぐためには、できるだけ熱のかからない加工を心がけなければなりません。加工時に熱をかけないためには刃物の切れ味や切り粉を逃がす方向にまで気を遣った段取りが必要です。

坂下社長仕込みの技を目で見て、体で覚え、自らの技にまで高めているのが機械加工部の12人のオペレータ。フロアに並ぶ計15台のマザック製CNC旋盤や複合加工機を巧みに操る様子は一見、金属加工業者の仕事ぶりです。しかし、素材もワークも切粉も真っ白。切削油の匂いも漂わなければ、加工音もほとんどしません。一般の金属加工と最も異なる機械の使い方は、すべてのマザック機に例外なく手研ぎのバイトを付けていることです。

手研ぎバイトでマザック機の性能引き出す

「対話型のマザトロールは簡単でとっつき易いが、刃物は非常に難しい」。平均年齢28歳のオペレータは口を揃えます。彼らのほとんどは非製造業からの転職者や文系出身者。加工経験が皆無であるにもかかわらず、彼らの手がける「より早く、よりきれいな

製品」は顧客を満足させてきました。坂下社長の培ってきた手研ぎバイトの技術をマザック機に応用し、双方の利点を高め合う格好で相乗効果を発揮してきたからです。実際、多くの若いオペレータは自ら最適な刃物を作り、機械に合わせて使いこなしています。



手研ぎバイトでの旋削加工

当初からマザック機の導入や立ち上げに携わって来た星知信、星浩朗両取締役は彼らに対して「もはや口出しすることがない。創意工夫で新技術を編み出し続けている若手社員が原動力になっているのは間違いない」と言い切ります。その実力はシミュレーションで120秒かかるワークの加工をパラメーターの設定やGコードの駆使で90秒に縮めるほど。マザトロールのパネルをキャンパス代わりに絵を描くのも朝飯前です。



マザトロールをキャンパスに。こんな発想は若手ならではの？

刃物と機械との調和極めるオペレータ

「樹脂業界では、くし刃型のNC機を導入するのが当たり前だった当時、マザトロールとタレット型刃物台を組み合わせた当社の考え方は珍しかった」と浩朗取締役は振り返ります。その選択が誤りでなかったことは、量産用の設備よりもマザック機のほうが1個あたりのリードタイムを短縮できることで明らかとなりました。



マザトロールを使いこなす若手社員

星知信取締役は「丸加工は刃物や加工方法で出来栄が左右される。それだけに、知見と発想力が調和すれば、より良い力を引き出せる懐の深さがある」とマザック機を評します。

「いかに同業者の製品よりも早く、きれいな製品を納められるか」。同社が挑み続けてきた問いの答えは刃物と機械との調和を極めてきたオペレータの力に委ねられているようです。



01

COMPANY PROFILE



YUDO

YUDO CO., LTD.

代表理事：柳 永熙
所在地：169-4 Gujang-Ri, Paltan-Myun,
Hwasung-City, Gyeonggi-Do, KOREA
資本金：36億180万ウォン
従業員数：3000人
http://www.yudo.com

Korea YUDO

Customer Report 03 ホットランナーシステム手がける世界的企業

 Korea YUDO CO., LTD.

射出成形金型の中核を担うホットランナーシステムの開発に韓国で初めて成功したYUDO社は1980年に創業したグローバルリーディングカンパニーです。親会社であるYUDO実業をはじめ、射出成形機用金型や自動化システムなどを扱うYUDO-STAR AUTOMATION、YUDO-SUNS、YUDO-ROBOTICSなどの関連会社で構成。グループの総合力を生かして、周辺機器を含めた同システム全体を幅広く手がけています。YUDOは世界中に生産・販売拠点をもち、600台を超えるマザックマシンが導入されています。



02



03



04

- 01. 6台のFJV-35/60とYUDO製FMS
- 02. YUDO製ガントリーシステムが追加されたQUICK TURN SMART
- 03. 5台のFJV-90/120とYUDO製FMS
- 04. 4台のVARIAXIS 730-5XとFMS

アジア通貨危機のピンチをチャンスに

ホットランナーは、射出成形機に組み込まれており、製品の材料となるプラスチックを温めながら金型に流し込み、成形品のみを取り出す主要機構。自動車のバンパーや携帯電話のボディなど、身の回りにあふれる各種プラスチック製品の成形に利用されています。



QUICK TURN SMARTで加工されたホットランナーの先端ノズル



YUDOのホットランナーで作られた携帯電話のボディパーツ

必要とされながら、どの韓国企業も手がけていない点に着目した柳永熙会長は、勤めていた会社を辞め、ホットランナーの世界に飛び込みました。同社が今日のように業界の頂点を極めるまでに急成長を遂げた背景には、韓国を襲ったアジア通貨危機に伴う大不況下で柳会長が下した強い決断があります。当時、韓国経済はIMFからの救済を受け

ており、韓国通貨の対ドル価値は約半分にまで下がっていました。柳会長はこの通貨安をチャンスと捉え、海外への進出に踏み切りました。韓国国内でホットランナーの価格競争が激化していた事情もあります。逆境をチャンスと捉える柳会長の経営センスと、海外進出への積極的な投資は、吹きさす逆風を成長への大きな追い風へと変えたのです。

お金を稼ぐには良い機械に投資を

敷地内にいくつも立ち並ぶ大きな工場の内部設備はどこを覗いてもマザック一色。世界に広がるYUDOの工場では600台を超えるマザック製品が稼働しています。現在の工場の建設時、柳会長は複数の工作機械メーカーの製品や条件などを比較、検討し、最終的にマザック製品を選びました。

「マザックだけが唯一、われわれの要求を満たしてくれたからです」。マザック機導入の経緯を柳会長はそう振り返ります。「製品の信頼性や充実したサービス体制はもちろん、提示された価格も納得できる内容でした。事業規模の小さかった当社の要求にも分け隔てなく耳を傾け、柔軟に対応してくれる姿勢にも感銘を受けました。機械に搭載するオプション関連はすべて一任しています」(柳会長)。

この取り引き以来、同社が購入する金属加工機械はマザック一筋です。「普通の機械で当たり前の加工をしてはだめ。良い機械に投資をしなければお金は稼げません」(同)。

ロボット事業でも世界ナンバーワンに

今後は主力のホットランナー事業のうち、売上の30%弱を占める自動化設備関係向けの増大に狙いを定めています。「地域別ではヨーロッパに力を入れ、自動化設備関連の仕事を増やすことで、ホットランナーの市場を着実に広げていく」(同)考えです。



日本語でインタビューに答える柳会長

工作機械や射出成形機向けの自動化設備を手がける同社の技術力は、フロアスペースを抑えるためにタンデムタイプのFMSを自前で制作してしまうほど。工場内には、独自制作のFMSがFJVやHORIZONTAL CENTER NEXUSなどに組み付けられ、休むことなく稼働しています。「先行きはホットランナーだけでなく、ロボット事業でも世界ナンバーワンを目指す」(同)方針です。

同社は現在、敷地内に新しい工場を建設中。中核事業を柱に据えた大規模な事業拡大戦略は着々と進んでいます。



COMPANY PROFILE



Austbore Pty Ltd.

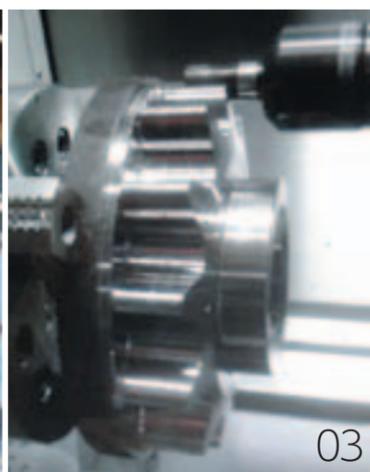
代表 : Michael Botto
 所在地 : 12-16 Progress Drive Mackay,
 Queensland 4740 Australia
 従業員数 : 35人
<http://www.austbore.com.au>

Customer Report **04**

短いサイクルタイムで生み出す革新的な製品

Australia Austbore Pty Ltd.

Austbore社はオーストラリア、クイーンズランド州東部の町マッカイに拠点を置く機械加工業者です。同社は創業以来20年以上にわたり、地元の鉱山業に貢献し、成功を収めています。創業当初、保有する工作機械がわずか1台であった同社はその後ゆっくりと成長を続け、35人の技術者を抱えるまでに発展。業容の拡大に伴い、今日では多種多様な工作機械を導入しています。



01. 鉱山掘削用機械パーツのジョイント部分
 02. INTEGREX e-420H II(左)とINTEGREX 200-IV S(右・側面)
 03. 複雑なジョイント部分もINTEGREXで高精度加工
 04. オペレーションマネージャのダリル・リンドセイ氏

2機のINTEGREXで多様な生産に挑む

同社は昨年、マザックのオーストラリアの代理店、ジョン・ハート社から2台のINTEGREXを含む計6台を購入しました。「INTEGREXに対するジョン・ハート社の対応は非常に適切で、こちらの要望にも早急に応じてくれます」と、Austbore社のオペレーションマネージャであるダリル・リンドセイ氏は語ります。

2機のINTEGREXは従来の長いサイクルタイムを短くする目的で導入しました。基本的に一品生産で商品を製造している同社にとって、サイクルタイムの短縮は経営上、極めて重要な要素となるからです。これらの導入によって、同社はこれまでにない多様な生産に挑戦できるようになりました。

ただ一つの問題は用途が無制限であること

「2機のINTEGREXはわれわれに多大な可能性をもたらしました。これまで挑戦できなかった仕事に着手できるようになったからです。特にINTEGREX e-420H IIに搭載されている、さまざまな機能はわれわれの想像をはるかに超えています」と、リンドセイ氏は導入機に対する手応えを述べます。

「ただ一つ問題があるとすれば、用途が無制限であるということでしょう。おかげで、今までできなかったたくさんの加工が可能になりました。もちろん、この“問題”は非難でなく賛辞です。他社製品よりも大きなY軸

ストロークとB軸が240度回転する刃物台によって、幅広い可能性が生まれるのも魅力的です」(リンドセイ氏)。

INTEGREX e-420H IIを購入したことで、同社は極めて創造的な加工方式を生み出しました。例えば、チャックにボルトで直接固定することのできる治具を自社製作し、段取り替えをすることなく、部品全面に対しミーリング加工ができるようにしたのです。一度のセットアップで済むのはINTEGREXの基本思想「DONE IN ONE」の考え方が理解されているからです。



チャック部分に自作の治具を取り付け、作業効率・加工精度をさらに向上

「これまで2~3回の段取り替えを要した加工も、現在では一度のセットアップで完成品まで仕上げられるようになりました。段取り替えによる精度誤差をゼロにすることができるだけでなく、作業時間も従来の3分の2になり大きく短縮されました」(同)。

INTEGREXの性能を引き出す人材育成に力

同社は現在、社内の人材教育に人一倍力を入れています。課題もあります。「当社にはINTEGREXのオペレータが2人います。彼らの作業負担を減らすために、もう2人の人材がほしいのですが、この地域で経験豊富な技術者を確保するのは難しいのです」(同)。



INTEGREXと2人のオペレータ

同社が目指すのは、優秀な技術者を育てることでINTEGREXの性能を最大限に引き出し、より革新的な製品を提供することです。さらなる飛躍に向けた同社とINTEGREXの共同歩調は確かな足取りを示しているようです。



タレット旋盤からのジャンプアップ機
INTEGREX j-200に第2主軸仕様を拡充



第2主軸搭載、より身近な複合加工機

INTEGREX J-200S

第1、第2工程の連続加工が可能となり、一台の機械で全工程を完結させ生産リードタイムを大幅に短縮します。
複雑形状で位置合わせが必要なワークに効果を発揮。手間をかけずに完成品まで自動で高精度に加工ができます。

【製品仕様】

* 主軸最大回転速度は、チャックの仕様により制限を受けます。
最大加工長さは、チャックの種類により異なります。

| | |
|--------------------|-------------------------------------|
| 最大の振り/往復台上の振り | φ530 mm |
| 最大加工径/最大加工長さ* | φ500 mm / 910mm |
| ストローク(X/Y/Z) | 450 mm / 200 mm(±100mm) / 960mm |
| 主軸最大回転数* | 5000 min ⁻¹ |
| ミーリング主軸最大回転数 | 12000 min ⁻¹ |
| ミル主軸出力(40%ED/連続定格) | 3.5kW / 3.0kW (オプション:7.5kW / 5.5kW) |
| 工具収納本数 | 20本 (オプション:36, 72本) |

テーブル固定のトラベリングコラムタイプ構造
から生まれた快適な作業性と抜群の操作性



高速・高精度トラベリングコラムタイプ
立形マシニングセンタ

VTC-530/20

ベストセラー機であるVTC-200Cをベースに開発され、マシニング主軸がX軸、Y軸、Z軸方向に動くトラベリングコラムタイプの立形マシニングセンタです。
テーブルが固定式の為、広い加工領域(X軸: 1950mm)を実現すると共に、テーブルからオーバーハングする長尺ワークや小型部品の多数個取り、2パレットチェンジャの代用など幅広い用途に対応します。

【製品仕様比較】

| | VTC-530/20 | 従来機(VTC-200C) |
|--------------|---------------------------|--------------------------|
| テーブルサイズ | 2300×530 mm | 2300×510 mm |
| ストローク(X/Y/Z) | 1950 mm / 530 mm / 510 mm | 1950 mm / 510 mm / 510mm |
| 主軸最大回転数 | 12000 min ⁻¹ | 10000 min ⁻¹ |
| 早送り速度 | 42 m/min | 30 m/min |
| 工具収納本数 | 30本 | 24本 |
| チップ・ツール・チップ | 4.5 秒 | 4.7 秒 |



MAZAK PEOPLE



Mazak Corporation (U.S.A) 製品開発部

ショーン・ターナー さん

Ms. Shawn Turner

1974年の北米進出以来、マザックコーポレーションは2014年で設立40周年を迎えました。生産拠点であるケンタッキー工場では汎用機から最新鋭のマルチタスキングマシンまで、合計100種類超の機械が日々生産され、昨年9月には累計出荷台数3万台を達成しました。

今回は数多くの米国独自開発モデルを生産するケンタッキー工場において機械製造の根幹を担う、組立現場で働くショーン・ターナーさんをご紹介します。ショーン・ターナーさんは1988年にマザックコーポレーションに入社、そのキャリアは今年で26年目を迎えます。

新しいアイデアで品質向上に寄与

——入社後の足取りは？

「マザックでの最初の仕事は機械の電気配線でした。次に組立現場で経験を積みました。その後は、完成した機械に最初の電源投入を行い、初期検査を行う業務に当たっていました。現在は、組立工程において必要となるすべての部品の確認をし、適切なタイミングで各製造工程へ過不足無く届けるための、いわば「パーツ・コーディネータ」の仕事を行っています。」

——仕事の上で心がけていることは？

「生産する機械の種類が増えるたびに、われわれの仕事も常に変化していきます。その中で日々同僚たちと相談しながら「いかに効率よく作業を行えるか」に重点を置いて日々業務に当たっています。特に、定期的に行われる機械の品質を向上させるための提案活動に力を入れてきました。所属グループでアイデアを出し合い、皆が納得するまで何度も議論を重ね、プレゼンテーションを行います。私たちのアイデアのいくつかは社内表彰を受け、ケンタッキー工場での画期的な取り組みとして日本の工場へと紹介されたこともあるんです。これらは私の人生で最も成功したと感じる経験ですね。」

ライフスタイルとしてのマザック

——あなたの人生にとってマザックで働くということとは？

「私にとって仕事とは、家族と共に過ごす時間同様に、人生において最も大切な時間です。単に生活の糧を得る場ではなく、多くのものを私にもたらしてくれます。仕事を通して感じたやりがいや達成感、知り合った多くの同僚たち、これらは私の人生を構築する大きな財産です。特に、職場で出会った多くの友人は、ゴルフ大会やクリスマスパーティを開催したり、趣味のランニングを共にしたりするなど、仕事の枠を越えてプライベートでも親交の深い友人がたくさんいます。」

——最後に、今後チャレンジしたいこと、達成したい目標とは？

「私は現在の仕事にはとても満足していますが、もし新たな業務にチャレンジする機会があるとすれば生産管理の仕事に興味があります。長年、製造現場でさまざまな部品を扱うことで培った技術や知識を生かすことができるからです。たとえどのような仕事に就いたとしても自分の能力を最大限に発揮することで、機械の品質を向上させ、マザックマシンの持つ卓越さをお客様にもたらすことが目標です。自分自身が考えている引退の時期はまだまだ20年以上先ですが、生涯マザックウーマンを貫きたいと思っています。」



部品の管理を行うショーンさん

明るい笑顔でそう語ってくれた、ショーン・ターナーさん、インタビュー中にたびたび聞かれた「Quality」(品質)という言葉から、彼女の仕事に対する真摯な姿勢が伝わってきました。これからも仲間と共に彼女は走り続けます。



家族や仲間の写真が貼られたツールボックス



ヤマザキマザック株式会社 Facebookページのご紹介

www.facebook.com/mazak.jp



ヤマザキマザック株式会社のFacebookページでは、広報誌やホームページなどではお伝えできないエピソードやホットな情報、具体的にはイベントや社内の取り組みなどの情報、またヤマザキマザックについての雑学などをお届けしていますので、是非一度アクセスしてみてください。
Facebookを通じて皆様とヤマザキマザックの輪をさらに広げていただくと考えております。

スマートフォンなどのモバイル機器でご覧になる場合は上のURLを入力するか、右のQRコードを読み込んでアクセスしてください。



ヤマザキマザック美術館は、美術鑑賞を通して豊かな地域社会の創造、ひいては日本、世界の美と文化に貢献すべく、名古屋の中心地 葵町に、2010年4月に開館致しました。

当館は、創立者であり初代館長 山崎照幸が蒐集した18世紀から20世紀にわたるフランス美術300年の流れを一望する絵画作品及びアール・ヌーヴォーのガラスや家具等、ヤマザキマザックのコレクションを所蔵・公開しております。

みなさまのご来館をお待ちしております。



エミール・ガレ (1846-1904)《アザミ文花瓶》1890年代

◆ エミール・ガレ「アザミ文花瓶」

青白く煙る霞を思わせる青みがかったガラス。日本の花瓶を彷彿とさせる流麗なフォルム。朝霧の中、露をしたたらせひっそりと咲き開いたかのように見えるアザミの表情は、色調を押さえることで醸しだされる詩的な余韻を感じさせます。

19世紀後半、欧米では「ジャポニスム」と呼ばれる日本美術愛好趣味がブームとなりました。個人貿易商等を通して輸出された日本文化に、ガレはもちろん、詩人のボードレーや画家のゴッホやホイッスラーなど多くの文化人たちはたちまちのうちに魅了されました。自然と共存し、四季の移り変わりと共に生きる日本人の自然観は、欧米諸国に新しい世界の扉を開いたのです。

THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART 所蔵作品ご紹介

◆ ウジェーヌ・ドラクロワ「シビュラと黄金の小枝」

19世紀フランス・ロマン主義を代表する画家ドラクロワの円熟期の作品です。ドラクロワは、感情の高鳴りを劇的な色彩と激しいタッチで描くことから、「ロマン主義」と称されました。

本作に描かれているのは古代ローマの叙事詩「アエネイス」の一場面です。トロイアの王子アエネイスは、亡き父親に会う為、アポロ神の巫女シビュラの洞窟を訪ねます。黄金の小枝を見つけなければ父親に会うことはできない。そう告げながら頭上にある黄金の小枝を指し示すシビュラ。奥に見える道は冥界へと繋がっています。「シビュラ。彼女は暗い森の中に黄金の小枝を指し示し、崇高な心と神々に愛されし者たちをひきつける」

ドラクロワは1845年にこの絵をサロンで発表した際、金の枝は神々に選ばれた者の印である、と説明しました。そしてこの絵は、自らが芸術家として「神から金の枝を授かった」という自負を込めて描いたと言われています。暗い背景に鮮やかな赤い布をまとったシビュラの姿からは、崇高な迫力が伝わってきます。



ウジェーヌ・ドラクロワ (1798-1863)
《シビュラと黄金の小枝》1838年 (1845年、サロン出品)

予告

ポール・デルヴォーとベルギー近代絵画 近代によみがえる古代の夢

2014年 6.14(土) - 9.23(火・祝)

| | |
|------|--|
| 開館時間 | 平日 / 10:00 ~ 17:30 土日祝 / 10:00 ~ 17:00 (入館は閉館の30分前まで) |
| 休館日 | 月曜日 (月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日が休館) 但し 9/22(月)は開館 展示替え期間 (6/7 ~ 6/13, 9/24 ~ 9/26) |
| 入館料 | 一般 1,000円 (10名様以上 800円)、18歳未満 500円、小学生未満無料 (音声ガイド無料サービス) ただし上記企画展会期中は 一般 1,300円 (10名様以上 1,100円)、18歳未満 600円、小学生未満無料 (音声ガイド無料サービス) |

M ヤマザキ マザック 美術館
THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART

〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30
TEL: 052-937-3737 / FAX: 052-937-3789
http://www.mazak-art.com

地下鉄東山線「新栄町」駅下車 / 1番出口直結